



# 遠軽 | C道の駅管理運営指針

(平成31年1月)



## 目次

はじめに	1
1 これまでの主な経緯・経過	2
2 第2次総合計画での遠軽IC道の駅の位置づけ	3
第1章 施設の理念	
1. 施設の設置目的	4
2. 道の駅という場の提供	4
3. つながりを生み出す施設を目指して	4
4. 4つのポイント	5
5. 施設を中心に展開される全体の事業イメージ	6
第2章 建築・空間の概要	
1. 敷地・建物データ	7
2. 建築配置	8
3. 空間配慮・特徴	9
(1) 2つのレベルの活用	
(2) 上下階の連続と一体化	
4. 環境に配慮した建築	10
5. アクション・サポート	10
(1) サポート機能	
(2) サイン計画	
(3) 家具・備品計画	
6. フロア計画	11
(1) 1階「道の駅」	
(2) 2階「ロッジ」	
7. 機能別施設構成	14
(1) 道の駅機能関連概要	
(2) ロッジ機能関連概要	
第3章 施設の管理運営について	
1. 管理運営の方法・主体等について	16
(1) 町民の参画	
(2) 管理運営手法の特徴	
(3) 指定管理者制度の採用	
(4) 管理運営主体について	



- 2. 施設管理の基本的事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
  - (1) 開館時間・開館日
  - (2) 出店・出品料金等
  - (3) 駐車場
- 3. 管理運営組織体制の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
  - (1) 管理運営体制等
  - (2) 組織体系図
  - (3) 駅長の任用
  - (4) 指定管理者の選定
  - (5) 必要人員想定
  - (6) 収支想定

第4章 各機能の特徴と主な業務

- 1. 道の駅機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
  - (1) 基本的な考え方
  - (2) トイレについての考え方
  - (3) 直売・物販・飲食の提供の考え方
  - (4) 主な業務内容
- 2. ロッジ機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
  - (1) 基本的な考え方
  - (2) ホール・レストスペース・軽食コーナーの考え方
  - (3) 体験プログラムの考え方
  - (4) 主な業務内容
- 3. 全体管理機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
  - (1) 基本的な考え方
  - (2) 情報発信の考え方
  - (3) 防災の考え方
  - (4) 主な業務内容



## はじめに

現在工事が進められている旭川・紋別自動車道は、平成29年3月19日に丸瀬布 I C から遠軽瀬戸瀬 I C まで11.2km が開通したところであり、次の I C となる遠軽 I C については、国土交通省から平成31年度中の開通を予定する旨の発表がされている。

遠軽 I C 道の駅は、遠軽 I C の供用に合わせ、地域の観光振興や情報発信に関する相乗効果が生まれることが考えられ、えんがるロックバレースキー場（※以下「ロックバレースキー場」という。）のロッジの更新に合わせて一体的に整備を行うことで、北海道で唯一のスキー場ロッジを併設した道の駅として、利便性、話題性から多くの集客が期待されており、平成31年12月のスキー場の営業開始に合わせたロッジ部のリニューアルオープン、遠軽 I C の開通に合わせた全体オープンを予定している。

また、「ゲレンデと遠軽とオホーツクの魅力を発信する道の駅」のコンセプトのもと、地域の意向を反映した活力のある施設とするために、札幌・旭川方面から見るとオホーツク圏への玄関口となる立地特性を活かして、地域の個性を演出する施設づくりを進めていくとしている。





## 1 これまでの主な経緯・経過

### <用地等取得・処分>

旭川・紋別自動車道丸瀬布遠軽道路の建設にあたって、平成25年度に北海道開発局と用地等に係る具体的な協議を開始し、町有地である、ロックバレースキー場用地の各種調査を経て、土地売買に関する契約、立木売買に関する契約、物件の移転に関する契約及び損失補償契約を締結し、平成28年度に財産の処分について町議会で議決された。

また、用地等の取得については、道路用地としての財産処分に関連して、民間所有の1件について土地売買及び立木売買に関する契約を締結し、平成28年度に町有地として所有権移転登記を完了している。

### <各種設計委託・工事>

道の駅の建設に向けて、平成24年度の高規格道路ロックバレースキー場周辺協議資料作成業務委託を皮切りに、平成25・26年度には高規格道路ロックバレースキー場周辺整備基本設計業務委託、平成27年度には上下水道事業に係る各種業務委託、平成27・28年度には開発行為に係る設計業務委託及び施設の基本設計業務委託を実施した。

また、平成28年度には施設の実設計業務委託を実施し、平成29年度には圧雪車等を格納する大型車庫建設工事とそれに伴う外構整備工事及びスキー場の既存の倉庫の解体工事を実施した。平成30年度は既存のロッジの解体工事を実施し、平成30・31年度の2か年で本体施設の建設工事、平成31年度には既存のレストハウスの解体工事の実施を予定している。

### <検討協議会>

旭川・紋別自動車道の「(仮称)遠軽豊里 I C」の設置予定に伴い、同 I C に隣接するロックバレースキー場と一体化した道の駅の整備に向けた基本計画案の策定を行う組織として、道の駅の運営にも関わりが深いことが予想される様々な背景を有する町の機関を代表する方及び学識者で構成された「(仮称)遠軽豊里 I C 周辺施設基本計画検討協議会」が平成27年度に発足し、スキー場周辺整備についてコンセプトや基本方針を検討し、とりまとめた提言書を平成27年12月に町長に提出した。

また、平成28年度には I C の名称が「遠軽 I C」に決定したこと及び基本設計が完了したことに伴い、「遠軽 I C 道の駅検討協議会」(※以下「検討協議会」という。)に名称を改め、より具体的な協議を重ね、通算して16回の会議を実施している。(平成31年1月末日現在)

### <遠軽 I C 道の駅を考える会>

遠軽 I C 道の駅の運営を含めて、専門性を持った部会に分かれて、実務者レベルで具体的に検討することを目的とした組織の総称。(※以下「考える会」という。)

また、考える会は、野菜・物産等の販売や食の提供などを検討する「産業・食部会」、スキー場の利点を活かしたアクティビティや風景づくりなどを検討する「体験部会」、周辺地域の情報提





供などを検討する「情報発信部会」の3部会で構成し、それぞれで検討された内容を幹事会が取りまとめ、部会間や外部との連絡調整を図るとともに、上部組織の検討協議会へ確認・提案をしていくこととしており、これまでに産業・食部会は7回の会議と1回の全体視察、体験部会は5回の会議と1回の全体視察、情報発信部会は4回の会議を開催し、それぞれ方針が定まったところであり、今後は必要に応じた開催を予定している。

#### <管理運営方針のまとめ>

平成27年度に提出された提言書を受け、施設の設置目的を達成するための管理運営の取り組み方針とするとともに、考える会をはじめとする具体的な協議にあたって、施設全体の特徴や管理運営の基本となる共通認識として、平成29年6月に「遠軽 I C道の駅管理運営方針のまとめ」を策定した。

## 2 第2次遠軽町総合計画での遠軽 I C道の駅の位置づけ

遠軽 I C道の駅は、平成27年度から平成36年度までの10年間を計画期間とする「第2次遠軽町総合計画」において、前期実行計画（平成27～31年度）での想定事業「ロックバレースキー場周辺整備事業」として位置づけられ、地域の観光振興や情報発信に関する相乗効果が生まれることが考えられるロックバレースキー場と一体となった道の駅を目指すとして、「基本方針3 活気と創造性にあふれ、未来につながる産業づくり」における「基本目標2 魅力的で活気あふれる商工業・観光づくり」の中で、「観光と物産の振興」として高速交通網の延伸に合わせた新たな観光情報拠点の整備の検討が考えられている。





## 第1章 施設の理念

### 1. 施設の設置目的

本施設は、スキー場を併設していることや高規格道路のICに隣接していることでの立地的な特徴を持ち、広大なグレンデをはじめとする自然や施設内及び町内で通年楽しめる体験プログラム、遠軽・オホーツクの素材を多く活用した飲食、物産品、農・海産物の提供など、これまでの公共施設の類型を超えて、複数の機能を積極的に融合させることで新たなコンテンツを生み出し、遠軽・オホーツクの魅力を発信することで好循環をもたらし、にぎわいのある遠軽町になることを目指す。

### 2. 道の駅という場の提供

本施設は、道の駅として基本となる24時間無料で利用できる駐車場・トイレなどの「休憩機能」、道路情報・観光情報・緊急医療情報などの「情報提供機能」、文化教養施設・観光レクリエーション施設などの「地域連携機能」といった3つの機能に、遠軽・オホーツクらしさを盛り込んだ「飲食」「物販」「直売」の機能が加わるとともに、年間通したプログラムを提供する「体験」の機能が融合することによって、多様で異なる活動が出会い、交錯する「場」を創り出す。オープンで多様なコミュニケーションの「場」は、人とひととを結び付け、創造や対話の可能性を広げていく。

人々の交流が自然に生み出される質の高い「場」を提供し続けることによって、生活・文化・スポーツ・自然・歴史・まちづくり・ボランティア活動・町民活動・生涯学習・福祉・教育といった横断的な活動や交流のネットワークが自然に活性化され、地域社会の魅力を高めることに寄与する。

### 3. つながりを生み出す施設を目指して

近年、社会における価値観の多様化や急速に発展するインターネットに代表される情報化が進む中、核家族化を含めた小規模での活動の増加に伴い、個々の責任において主体的に判断し行動することが求められている。地域社会においても、さまざまな地域の課題について個人や地域の力を集結し、課題解決を図ることができるような自立した地域社会の形成が不可欠である。

その中で、今後さらにSNSなどを介して人同士がつながる動きや、その土地や地域を知ることから新たなアイデアへとつながる動き、情報網及び交通網の整備により点と点がつながる動きの加速化が予想されることから、このような状況に対応するためにも、本施設はファミリーと地元の方の利用を優先的に考えた中で、「遠軽・オホーツク」の魅力を発信し、オホーツク周遊の拠点として地域との“つながり”、風土の歴史とこれからの未来との“つながり”、子どもからお年寄りまで世代を超えた“つながり”といった、さまざまな“つながり”を創出することで、遠軽町の活性化を図る。



#### 4. 4つのポイント

管理運営方針のまとめ（平成29年6月策定）を受け、検討協議会をはじめ、考える会で協議を重ねてきたが、実施に向けた具体的な基本事項として、4つのポイントを掲げる。

##### ①地元の方に愛される道の駅

リピーターの確保を目的とし、地元が利用しないところに将来はないと考え、長期間、安定的に運営していくためには地元の方に継続的に足を運んでもらうことが必要である。その中で、目的を持って来てもらうための仕掛けや継続的な利用の促進、また、流行に乗るだけではなく、すぐに飽きないような工夫をする。



##### ②特徴を活かした展開

北海道内で唯一のスキー場を併設した道の駅ということでの話題性やインパクトを最大限に活かすことや、グレンデ中央にある一本桜のブランド化の検討、SNS等での若者や女性を意識した仕掛けが不可欠であると考え。その中で、立地やロケーションの良さを活かす必要があるということや、エゾヤマザクラの品種的な特徴を考慮するとともに、SNS映えする展開から情報の拡散を図ることを中心に考える。



##### ③スキーシーズン以外の集客

12月から3月のスキーシーズンには一定の集客が見込まれる中で、4月から11月のオフシーズンの集客が年間を通した運営のカギを握る部分であり、リフトの活用をした中でのグレンデの有効利用を図るとともに、観光バス等の団体客の誘致による収益の確保が求められる。その中で、観光バスの受入体制の整備として、トイレや団体客用の飲食メニュー、体験プログラム等の充実や、降雪が少ないスキー場であるため、夏場のグレンデ利用は冬場に影響の無いようにする必要があることなどを考える。



##### ④雇用の促進

スキー場スタッフの通年雇用や、若者の雇用を促進することで、仕事の質の向上や、スキー場特有の特殊な免許を持つ方の確保にもつながると考える。また、季節雇用は若者が入ってもすぐ辞めてしまうことが多く、若者の流出の抑制、地域の賑わいや経済の観点からも、通年雇用が望ましいと考える。





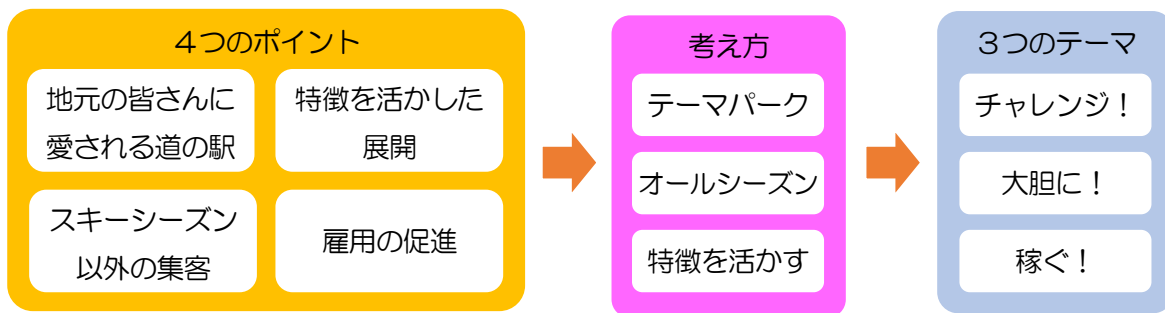


## 5. 施設を中心に展開される全体の事業イメージ

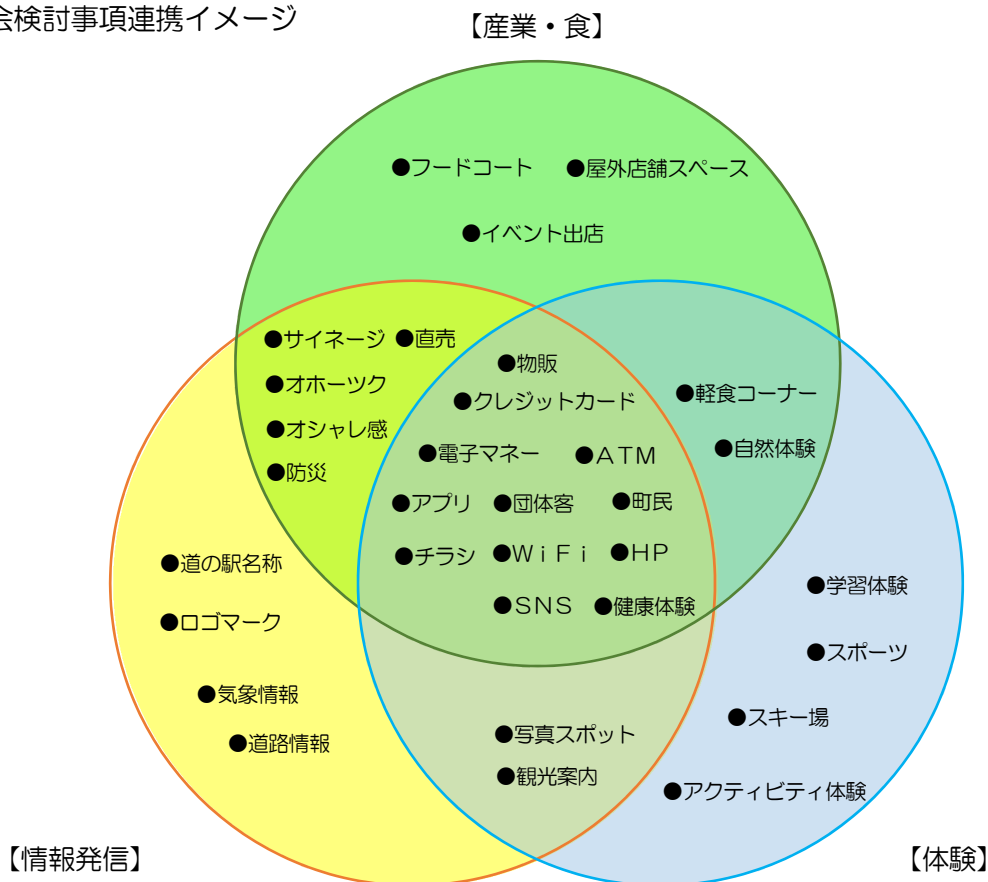
4つのポイントを念頭に置いた中で、整備に向けた考え方としては、他の道の駅とはスキー場併設というところが根本的に異なり、その素晴らしいロケーションを活かしながら、道の駅という枠を超えて、森の公園として捉えた中で1つの『テーマパーク』として考えるものとし、オールシーズンでその特徴を最大限に活かす。

また、上記のポイントと考え方を踏まえ、3つの大きなテーマとして、何事もやってみなければわからないということから「チャレンジ!」、後発の道の駅としてどこよりも新しく、ここにしかないものを目指すことから「大胆に!」、年間通した魅力の創出により集客を図り収益を上げるということから「稼ぐ!」と設定し、これまで考える会の3部会で検討した事項を踏まえ、全体の事業イメージを次のとおり示す。

### ●事業イメージ



### ●部会検討事項連携イメージ





## 第2章 建築・空間の概要

### 1. 敷地・建物データ

- 所在地 : 紋別郡遠軽町野上150番地1 えんがるロックバレースキー場
- 敷地面積 : 約21,000㎡
- 建築面積 : 1,035.01㎡
- 延床面積 : 1,619.71㎡ (1階: 844.40㎡ 2階: 775.31㎡)
- 階数 : 2階
- 建物高さ : 10.92m
- 規模構造 : 地上2階建RC造



ロックバレースキー場全景



旧ロッジ (ゲレンデ側から)



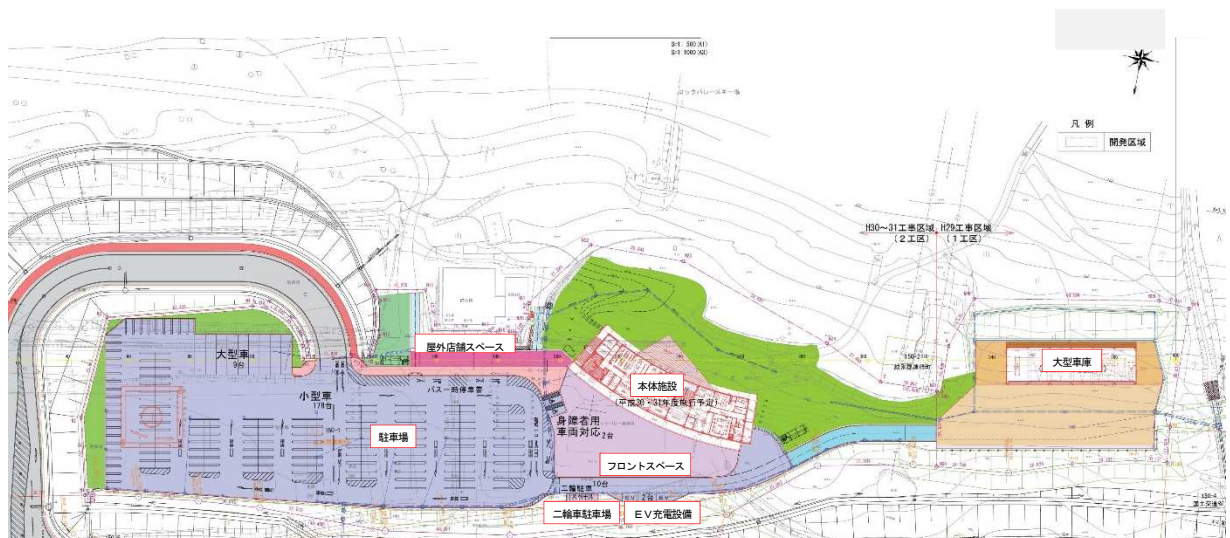


イメージ（駐車場側から）



イメージ（グレンデ側から）

## 2. 建築配置



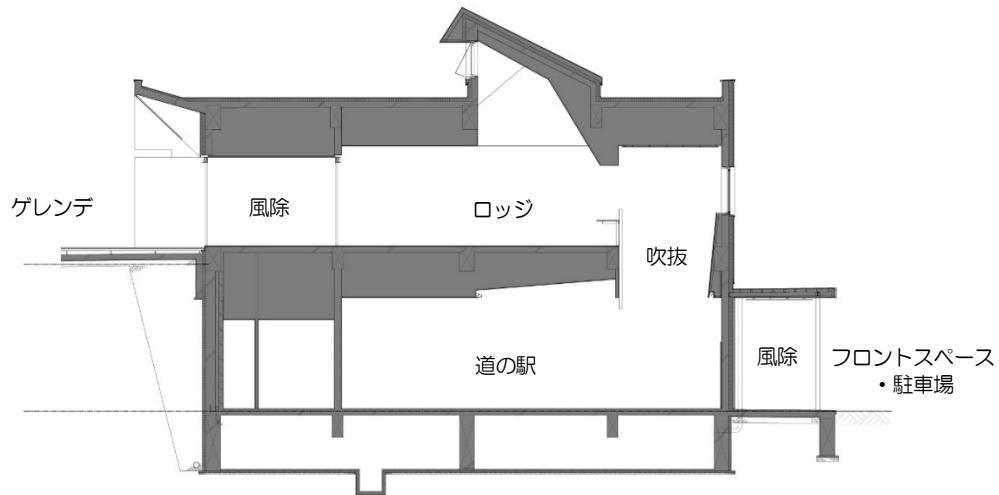


### 3. 空間配慮・特徴

#### (1) 2つのレベルの活用

計画地には、高速道路への接続道路との関係から設定される道の駅駐車場の地盤高さと、既存スキーリフト乗り場の高さには、4.5mの高低差がある（リフト乗り場が高い）。

本施設計画においては、「道の駅として必要な駐車スペースを確保する」とともに、「現状確保されていない、スキー場グレンデ下リフト乗り場レベルの平場を確保する」ことが前提であり、この2つのレベルに対応した施設計画とし、1階「道の駅」、2階「ロッジ」の機能構成とする。



#### (2) 上下階の連続と一体化

2つの機能は一体的利用が想定され、室内の「メイン階段」と「吹抜」を効果的に配置構成することで、上下フロアの円滑な移動と連続した空間をつくり、施設としての一体感を醸成する。

フロアごとに別々の活動が行われていてもよく、同時に相互の活動を感じることができるとして、利用者の思わぬ発見や、活動が活動を誘発するような「場」となることを目指している。

また、現ロッジのイメージを受け継ぎ、グレンデを見渡せる窓に加えて、随所に木の温かな雰囲気を感じられる設計となっている。



イメージ



#### 4. 環境に配慮した建築

少しでも環境負荷を小さくするとともに、維持管理の負担を小さくする建築を計画する。主な建築・設備計画は次のとおりである。

- ・トイレ等の衛生機器に節水型を採用する
- ・省エネ機器の採用
- ・利用別空調によるきめ細やかな対応で消費エネルギーを削減
- ・半地下を利用することによる、大幅な空調負荷を低減
- ・Low-E 複層ガラスによる窓の負荷軽減
- ・LED 照明を導入
- ・窓際の一部に昼光センサーを導入（検討）
- ・再生木デッキ材などのリサイクル材を使用

#### 5. アクション・サポート

##### (1) サポート機能

各階機能の充足やサービス提供に必要な、施設運営がスムーズに行えるためのサポートとして様々な機能を付加している。

##### ① 1階

- ・直売・物販等のための「物品庫」を設置し、フードコート販売ブース裏には搬出入動線を確保するとともに、食材等を保管する「プレハブ冷凍・冷蔵庫」や従業員を対象とした「更衣室」を設ける。

##### ② 2階

- ・観光バスの利用促進を図るため、乗務員を対象とした「休憩室」を設ける。
- ・スキー場の深夜管理のための「仮眠室」を設ける。
- ・地域防災拠点施設としての利用を想定した、「備蓄庫」を設け、防災用備品を備蓄する。

##### (2) サイン計画

施設利用者に心理的な安心を与えることができるよう、サイン自体を認識しやすいものとし、誰にとっても理解でき、わかりやすい内容とする。

- ・サインは、利用者に誘導や説明、規制などのメッセージを合理的に伝えるだけでなく、施設のコンセプト等を的確に伝えるコミュニケーション手段とする。（オリジナルのサインデザインを検討）
- ・文字やピクト（イラストのみで表現されているサイン）による表現を統一することで認識しやすくし、施設としての統一感を生み出す。
- ・秩序のないサインは、利用者に混乱を招くだけでなく、施設印象の低下に働くこともあるため、ルールを設けた展開とする。
- ・外国人観光客の利用も想定し、多国語表記を検討する。
- ・デジタルサイネージにより、施設の誘導案内はもちろん、遠軽・オホーツクの観光情報や広告の掲載により、多面的な情報提供を図る。





これらのサインとともに施設リーフレットやスタッフによる人的サポートで、利用者が的確に目的とする場所に移動できる施設を目指す。

#### ◇サインの種類

- ・全体案内サイン
- ・道の駅（1階）案内サイン
- ・ロッジ（2階）案内サイン
- ・誘導表示サイン
- ・階数表示サイン
- ・ルームサイン
- ・リーフレット
- ・デジタルサイネージ

### （3）家具・備品計画

安全かつ安心して施設利用できるように利用者の行動や活動をサポートし、利用者にとって快適な場を提供する計画とする。

- ・各機能に適合した家具や備品を設置することで、施設内の利用者の行為や活動、施設活用をスムーズにする。
- ・エントランスホールから直売・物販コーナー、連続するフードコートは、施設イメージをつくる空間でもあることから、インテリアデザインと調和した利用者の印象に残るようなイス・テーブルデザインを行う。
- ・ロッジホールは、夏期のイベントや団体利用等が想定されることから、多様な用途に対応できる計画とする。

## 6. フロア計画

2階	ロッジフロア トイレ/ロッカー/レストスペース/ホール /軽食コーナー/レンタル/ショップ/事務室/会議室	
1階	道の駅フロア 24時間トイレ/道路情報/直売/物販/事務室 /観光情報/エントランス/フードコート/ATM	フロントスペース /駐車場

### 断面図概要

#### （1）1階「道の駅」

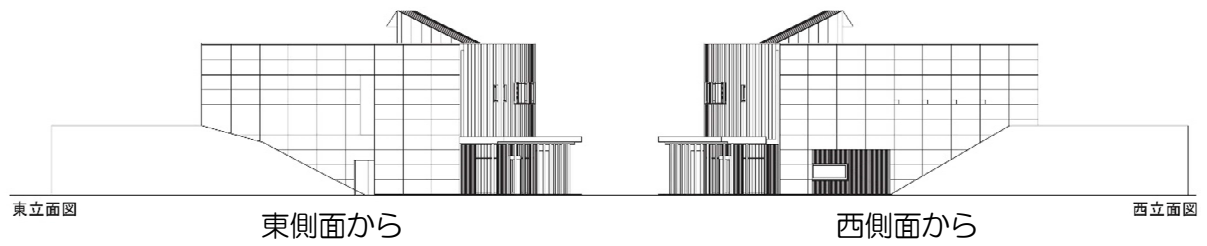
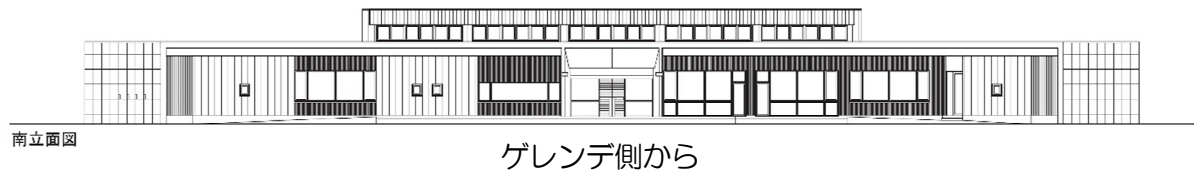
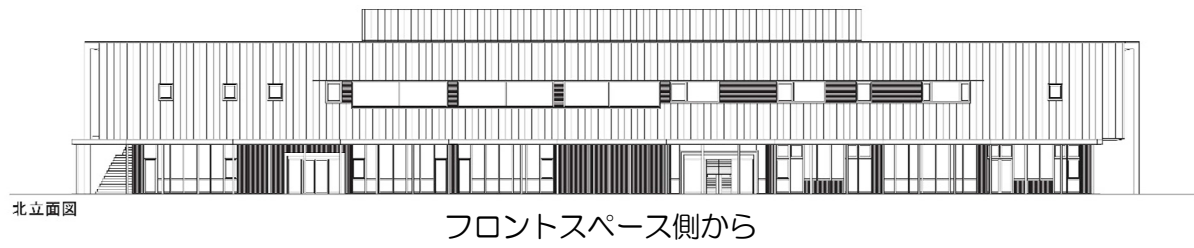
道の駅駐車場・フロントスペースに面し、メインエントランスと24時間対応トイレの2か所に出入口がある「道の駅フロア」。

- ・フロントスペースに面する全面に、庇を設け連続した屋外テラスとする。また、ガラス張りのフロント構成とし、施設内のレイアウトや活動をディスプレイする。
- ・エントランスホールは、メイン入口正面に2階への階段とエレベーターを配置し、2階への誘導をスムーズにするとともに、「直売」「物販」と「フードコート」をつなぎ、連続した空間として構成される。
- ・事務室前に配置されるインフォメーションカウンター及び風除室（1）横の情報発信コーナーでは、情報モニターをはじめ検索用タッチパネル等の電子機器や、パンフレット・リーフ





(3) 立面図





## 7. 機能別施設構成

本施設は、道の駅機能とロジ機能を一体的に融合させることにより、観光客や高規格道路利用者、スキー場利用者に魅力的なサービスを提供するとともに、多様な市民の参加と交流の機会を提供する。

### (1) 道の駅機能関連概要

機能	階	施設構成	概要
道の駅		施設の特徴づくりに向け地域と連携を図り、『グレンデと遠軽とオホーツクの魅力を発信する道の駅』を目指す。	
	1階	24時間トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不足感を生じることのないトイレ数（女子：15、男子：大5、小10）の24時間対応トイレ</li> <li>・授乳室やパウダーコーナー、更衣室、オムツ替えシートやオストメイト対応設備を備えた多目的トイレなど、充実した装備と清潔な清掃管理を行う</li> <li>・清掃職員用の休憩スペースを設ける</li> <li>・休憩スペースには自販機を備え、道路情報を提供する</li> <li>・無料公衆無線LAN（Wi-Fi）を提供する</li> </ul>
		エントランスホール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2階への階段、エレベーター（ストレッチャー対応）を中央に、直売、物販、フードコートと連続する一体的な、施設の中心となる空間</li> <li>・窓際上部の吹き抜けを介して2階との連続性があり、2階でのイベント等の活動の様子も感じることができる</li> </ul>
		直売・物販スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠軽・オホーツクの農・海産物を販売する</li> <li>・出品者ごとの販売ブースにこだわらず、季節や品目、品数に応じてレイアウトを変えながら販売する</li> <li>・出品者及び農・海産物、物産品の情報を明確にする</li> <li>・遠軽・オホーツクの素材を活用した産品を中心に、展示・販売する</li> <li>・特色ある企業や団体、その他オホーツクを意識した販売ブース（コーナー）を設ける</li> </ul>
		物品庫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直売、物販商品の在庫等を保管するスペース</li> </ul>
		案内・レジカウンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直売、物販のレジ機能を行う</li> <li>・対面型の情報提供、観光案内機能を担う</li> <li>・利用者の利便性向上のため、銀行ATMを設置する</li> </ul>
		フードコート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由な利用を前提とする飲食と休憩のスペース</li> <li>・夏期には屋外テラスも一体的に利用する</li> <li>・遠軽・オホーツクの素材を多く活用した飲食の提供</li> <li>・厨房はオープンスペースとし、指定管理者の直営とする</li> </ul>
		冷凍・冷蔵庫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食材等を十分に保管する大型冷凍・冷蔵庫を設ける</li> </ul>
		道の駅事務室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1階道の駅の管理運営のための事務スペース</li> </ul>
		更衣室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フードコート販売ブース職員の男女別更衣スペース</li> </ul>



(2) ロッジ機能関連概要

機能	階	施設構成	概要
ロ ジ シ			冬のグレンデスポーツの振興と、グレンデを利用した夏の風景づくり・屋外フィールドイベントを実施することで、道の駅の魅力向上に貢献する。
	2 階	ホール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南側のグレンデ、北側窓からの町の眺望が魅力的な、2階ロッジの中心となるスペース</li> <li>・スキー場利用者の休憩、待機スペース</li> <li>・グレンデ風景やまちの眺望を魅力とする、自由な休憩スペース</li> <li>・イベント会場としての利用を想定するスペース</li> <li>・団体利用者の食事・休憩等の利用を想定するスペース</li> <li>・体験プログラム等の利用</li> </ul>
		レストスペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常はホールと同一に利用。主に学校利用を想定するスペース</li> <li>・ホールとの一体的な利用</li> <li>・体験プログラム等の利用</li> </ul>
		軽食コーナー・厨房	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な厨房設備を設ける（ガスなし）</li> <li>・スキー場利用者への軽食提供（主に12～3月の期間、ラーメン・カレー・丼物等を想定）</li> <li>・イベントや団体利用時における飲み物や汁物提供等での一時利用</li> </ul>
		ショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキー客を想定するスキーグッズや菓子類等の販売</li> <li>・体験プログラムと連動し、イベント等を含めて臨機応変に対応する</li> </ul>
		受付・レンタルスペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキー場利用者への用具レンタル</li> <li>・レンタル受付、リフト券販売、利用相談対応</li> <li>・体験プログラム利用者への用具レンタル</li> <li>・2階「ホール」及び「屋外デッキ」での団体客への飲食の提供に際し、1階フードコートからの食材等のスムーズな運搬のため、ダムウェーターを設置する</li> </ul>
		ロッジ事務室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2階ロッジの管理運営事務と、スキー場の管理運営のための事務スペース</li> </ul>
		会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキー大会等イベントにおける大会事務所、会議等の利用</li> <li>・常時における施設全体会議等の利用</li> <li>・災害時における避難者の休憩場所としての利用</li> </ul>
		仮眠室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキー場の夜間管理者のための仮眠スペースとして、洗面所、浴室を備える</li> </ul>
		休憩室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に観光バス乗務員のための休憩スペースとして、屋外階段を利用したアプローチを想定する</li> </ul>
		トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主にロッジ利用者を想定したトイレ（女子：4、男子：大2、小4）</li> </ul>
		ロッカー室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキー場利用者の更衣及び所持品の保管</li> <li>・体験プログラム利用者の更衣及び所持品の保管</li> </ul>
		備蓄庫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時を想定した防災グッズ等の備蓄スペース</li> </ul>
カーポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキー場パトロール等で使用するスノーモービルや夏場の体験プログラムに係る用具等の保管スペース</li> </ul>		
屋外デッキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキー場利用者の休憩、待機スペース</li> <li>・グレンデ風景や利用者の活動の様子を魅力とする、自由な休憩スペース</li> <li>・イベント会場としての利用を想定するスペース</li> <li>・団体利用者の食事・休憩等の利用を想定するスペース</li> <li>・体験プログラム等の利用</li> </ul>		





## 第3章 施設の管理運営について

### 1. 管理運営の方法・主体等について

#### (1) 町民の参画

町民に親しまれるとともに施設の各機能を有効に活用していくためには、利用者ニーズを的確に把握する絶え間ない努力と、その運営への町民参加者の参画が欠かせない。町民の施設運営への参画を実現し、実効性のあるものにするために重要なことは、町民参加者と施設管理者がコミュニケーションを図ることができるような仕組みの構築である。

本施設は、道の駅機能とロッジ機能を有する施設全体を一体的に管理することが前提であり、利用目的によりニーズが異なることを想定し、きめ細かなサービスの提供を目指して、町民が日常的に足を運ぶ施設となることはもちろん、各種イベントでの出店・出品やボランティア活動など、町民が積極的に参画できる機会を提供する。

#### (2) 管理運営手法の特徴

本施設のような複合施設を有効に活用するためには、施設の「すべての機能を有機的に一体化」した管理運営が不可欠であり、そのことが『利用者ニーズに的確に応える』上で、最優先とされるべきコンセプトである。したがって、施設のすべての機能を融合し、一体化した管理運営をすることが不可欠である。

#### (3) 指定管理者制度の採用

指定管理者制度導入の趣旨は「多様化する住民ニーズにより効果的、効率的に対応するため、公の施設の管理に民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上を図るとともに、経費の削減等を図ることを目的とする」ものである。

一体化した管理運営を実現する上では、独立した団体（法人）が管理運営を行う指定管理者制度を採用することにより、各部門（全体管理部門、道の駅部門、スキー場部門）の連携した運営が可能になり、施設全体の一体的な管理運営を実現することができる。

#### (4) 管理運営主体について

本施設を中心となる事業は、地域への人の呼び込みや経済波及が期待される道の駅事業と、遠軽町のスポーツ振興の一翼を担うスキー場事業の一体的展開であり、地域活性化への貢献や地域の教育・保健等効果も期待されるといった行政（施策）と密接に関連するため、経営的視点ばかりではなく、行政との連携が不可欠である。

本施設は、道の駅とロッジが一体となった利用者へのサービス提供が問われる「商業的性格の強い施設」であり、地域の産業（商業、農業、観光等）との連携も強く求められることから、経済部商工観光課が所管することが適当である。

予定している本施設の機能・役割を総合的に勘案し、供用開始に向けた各種準備の期間を想定した場合、施設建設中の早い段階で指定管理者を決定することが必要であると考える。

なお、本施設において2つの機能の融合や地域の多様な活動との連携といった施設の特異性が



ら、マネジメント体制の構築が重要であり、現場を統括するいわゆる「道の駅長」（※以下、駅長という。）を置くこととする。

## 2. 施設管理の基本的事項

### （1）開館時間・開館日

開館時間・開館日については、指定管理者制度を活用し、効率性と柔軟性を確保することによって、幅広い利用者ニーズに的確に対応するよう、できる限り開館時間・開館日の拡大を図る。

本施設はこれまでの道の駅の枠を超えて、複数の機能を積極的に融合させることにより、さまざまな“つながり”を生み出すことが目的の施設であるため、施設の有する機能を一体的に管理することを前提としている。したがって、開館時間・開館日及び休館日についても全館としてのある程度の統一性が必要になる。しかしながら、施設の各機能もしくは各フロアでの開館時間等の利用者ニーズが若干異なることも想定されることや、高規格道路のICに隣接するという立地条件の良さ及び利用者の多様なライフスタイルを勘案し、より多くの利用者ニーズに対応する開館時間・開館日の設定を検討する。

具体的には休館日等を含め、既存スキー場との調整を図りつつも、開館時間・開館日等については下記を基準に、さらに休館日の縮小を目指し、利用者サービスの拡充を図ることを検討する。

#### 【各部門の開館時間、開館日】

部門	開館時間（営業時間）	開館日（営業日）
道の駅	午前9時～午後6時	年末年始等、指定管理者が指定する日を除き、年中無休とする。
ロッジ	（冬）午前9時～午後9時 （夏）午前9時～午後6時	冬期間は原則、指定管理者が指定する日を除き、無休とする。 夏期間は原則、道の駅部門に準ずる。
24時間 トイレ	24時間	年中無休とする。





(2) 出店・出品料金等

「フードコート」は指定管理者の直営を前提とし、出店・出品料金等については、「軽食コーナー」「屋外店舗スペース」「特産品販売施設」に区分し、下記を基準にルールを整備し、出店・出品者を募集することとする。

【各店舗の主な概要】

	フードコート	軽食コーナー	屋外店舗スペース	特産品販売施設	
				物販	直売
基本事項		<p>◇町内に本店事業所を有する法人または町内に住所を有する個人・団体を優先する。ただし、町内からの出店・出品希望がない場合や、一定レベル以上のもの（味やサービス等）を提供できないと判断した場合、その他指定管理者が認める場合についてはこの限りでない。</p> <p>◇遠軽・オホーツクの素材を活用した商品を販売する（食事、テイクアウト可能な軽食・喫茶・スイーツ、物産品、農・海産物）</p>			
概要		<p>◇出店者の募集を行い指定管理者が選定した業者が入居する</p> <p>◇フードコートのメニューとのすみ分けを図り、スキー場メニュー（ラーメン、カレー、丼物等）を中心に提供する</p>	<p>◇出店者の募集を行い指定管理者が選定した業者が入居する</p> <p>◇フードコート及び軽食コーナーのメニューとのすみ分けを図る</p> <p>◇指定管理者が考えるメニューについての提案型オフアアを受けて提供する</p>	<p>◇出品者は登録制とした中で出品者から出品依頼のあった商品を指定管理者が選定し委託販売を行う</p> <p>◇指定管理者が指定する出品者の一部商品については金額等を調整の上、買い取りすることとし、応募書類の省略も可とする</p> <p>◇賞味期限、消費期限を考慮し商品の種類により手数料は変動するものとする（委託・買い取り・町内・町外・食品・非食品ほか）</p> <p>◇町内の出品者からの出品を原則とするが、指定管理者が認めるものについてはこの限りでない</p>	
利用形態	指定管理者直営	テナント方式		委託販売方式 ※一部、買い取りあり	
区画数		約 20 m <sup>2</sup> × 1 区画 <small>（基本的な厨房設備あり）</small>	約 20 m <sup>2</sup> × 最大 4 区画		
利用期間	通年	主に 12～3 月 <small>（テナント）</small> 主に 4～11 月 <small>（指定管理者直営）</small>	通年		
利用料 <small>（月額）</small>		40,000 円 ※別途共益費 20,000 円	売上額の 20%以内 ※商品の種類により 変動するものとする	売上額の 50%以内 ※商品の種類により変動するものとする	
その他手数料				ラベルシール 1 枚 2～3 円 ※商品情報及びバーコード等印字	
直接費 <small>（月額）</small>		各自負担 <small>（電気・上下水道）</small> ※ガスなし			
店舗の造作費 及び設備費		遠軽町設置	各自負担 <small>（電気・給排水の取出入り）</small>		



### (3) 駐車場

駐車場については無料で、24時間利用可能とする。

道の駅前面のメイン駐車場には、小型車用178台、身障者用4台、大型車用9台、二輪車用10台分を確保する。

また、電気自動車等利用に対応した充電設備1台を装備する。

## 3. 管理運営組織体制の考え方

### (1) 管理運営体制等

道の駅機能及びロッジ機能が相互に融合するためには一体的管理が不可欠であり、その目的の達成を目指して以下の体系図により組織運営を行い、全体管理部門に施設全体を統括する駅長を置き、道の駅部門、スキー場部門の各部門にリーダーを置いて統括する。

#### ①全体管理部門

- ・施設全体の管理運営、施設内外の連絡調整、施設内庶務などの業務を行う。

#### ②道の駅部門

- ・道の駅としての「休憩機能」「情報提供機能」「地域連携機能」に加え、「飲食」「物販」「直売」に関する業務を行う。

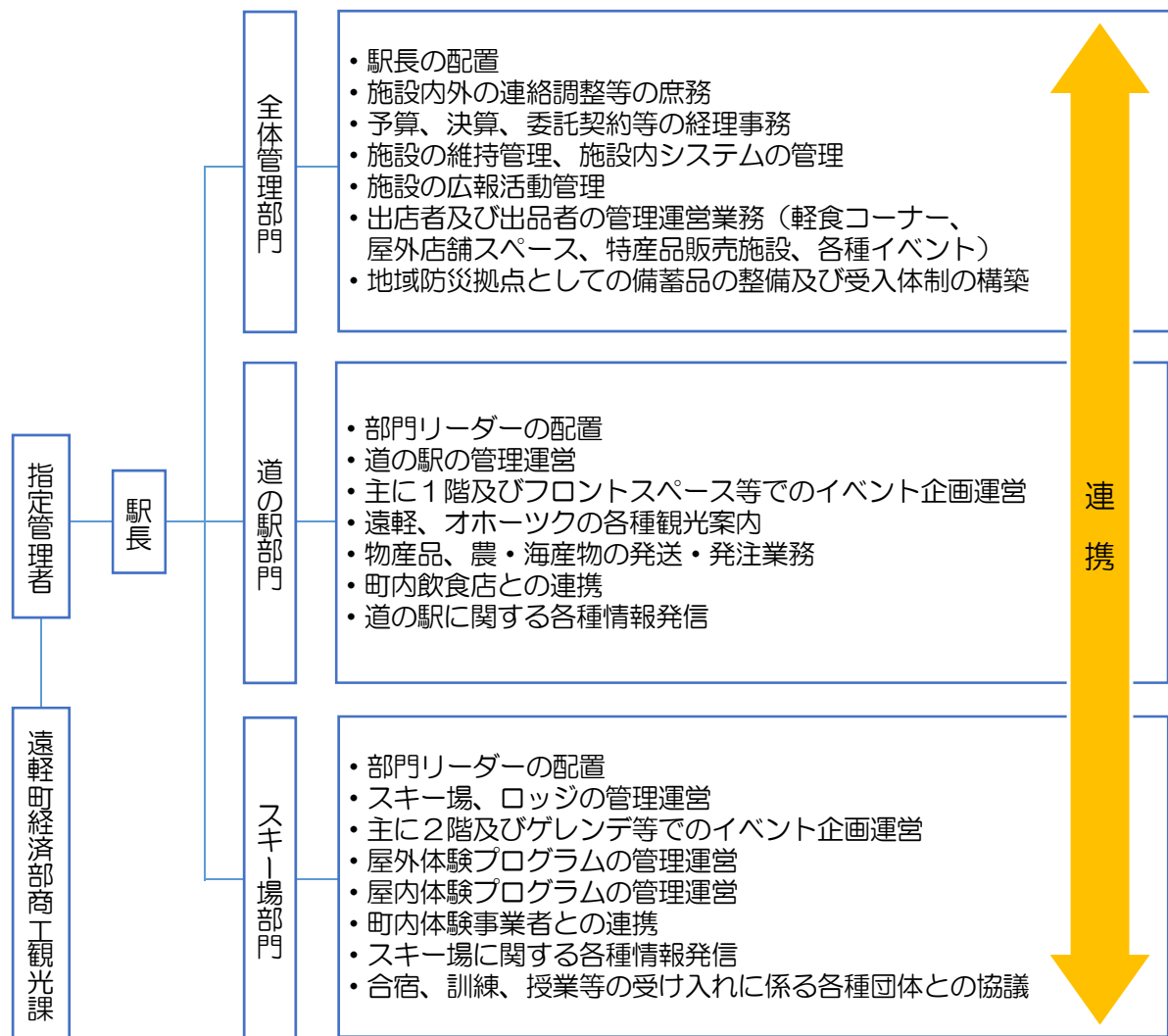
#### ③スキー場部門

- ・冬場は主にスキー場に関する業務を行うとともに、年間通して各種体験プログラムに関する業務を行う。

- 本施設は道の駅とスキー場ロッジが融合した複合的な施設であるとともに、季節毎に利用形態が異なることから、業務のすみ分けや職員の配置については、部門間の連携をより深めた中で、臨機応変に対応することとする。



## (2) 組織体系図 (イメージ)



## (3) 駅長の任用

民間企業等で培った知識や経験を活かし、熱意を持って施設全体を統括し運営を担う人材である駅長については、指定管理者による平成31年12月1日からの任用を予定している。

なお、駅長の任用に先立って、将来的に駅長となることを前提として、本施設の開業に向けて中心となって準備を進める駅長候補者1人を公募し、検討協議会事務局の構成機関の1つである（一社）えんがる町観光協会の特別職員として、平成29年11月1日付けで任用した。

## (4) 指定管理者の選定

本施設の運営においては、「グレンデと遠軽とオホーツクの魅力を発信する道の駅」をコンセプトに、グレンデを有効活用した様々な体験や地域の食・文化の発信を行う中で、オホーツク圏の玄関口となる地域活性化の拠点として、スキー場を含めた道の駅における効果的なサービスの提供にあたり、専門的な知識や経験を活かした管理運営が求められることから、より効率的に準備を進めるためにも、指定管理者の選定については、公募によらないことを前提とする。

また、指定管理の開始については、平成31年4月1日からを予定しており、平成30年度中に施設の設置条例及び指定管理者指定の議会議決、指定管理者との協定締結を行う。





## (5) 必要人員想定

部門	摘要	正職員	パート職員
全体管理	駅長を含む	3人	2人
道の駅	物販・飲食	3人	8人
スキー場	施設管理・体験・スキー場	4人	27人
合計		10人	37人

## (6) 収支想定(概算)

項目		年額(千円)	備考
収入	スキー場収入	27,000	リフト券・シーズン券・レンタルほか
	売店収入	35,000	物販・直売ほか
	飲食収入	62,000	フードコート
	体験収入	3,000	各種体験プログラム(自然・学習・健康)
	遊具収入	32,000	各種アクティビティ等
	自販機収入	9,000	
	指定管理料	49,000	
	合計	217,000	
支出	人件費	103,000	
	施設維持管理費	114,000	施設総合管理、保守管理委託、消耗品、情報機器関連費、システム機器借上料、備品購入費及び光熱水費等
	合計	217,000	

## ※維持管理費について

維持管理経費とは、施設総合管理、保守管理委託、消耗品、情報機器関連費、システム機器借上料、備品購入費及び光熱水費等で人件費を除いた施設を維持管理する上での必要な経費。

## ○(参考)施設の利用者数推計等

(既存施設は平成28年度値)

項目	ロッカレスキー場	道の駅 まるせっぴ	道の駅 しらたき	遠軽IC道の駅
開館日数	約100日	365日	365日	365日
開館時間	9:00~20:00 (ナイター実施 1~2月及び3 月平日のみ)	(4~9月) 9:00~18:00 (10~3月) 9:00~17:00	9:00~18:00	(道の駅) 9:00~18:00 (スキー場) 9:00~21:00
来場者数(年間)	約4万人	約96万人	約25万人	約80万人



## 第4章 各機能の特徴と主な業務

### 1. 道の駅機能

#### (1) 基本的な考え方

道の駅の位置づけは、充実した道の駅機能（休憩、トイレ、情報等）の提供や、オホーツクの玄関口としての広域の地域情報提供、町内の多様な団体・企業・個人等と連携のとれた遠軽町の地域紹介の展開を目指す。

機能の特色としては、団体客や女性・子どもの利用に配慮したトイレ機能の充実や、農・海産物や各種加工品等の地域特産品の品揃えと製品情報の提供、遠軽・オホーツクの地域情報を入手することができるサービス等を提供する。

また、フードコート形式による、遠軽・オホーツクの素材を多く活用した特色ある飲食を提供し、「遠軽・オホーツクならではの」「ここにしかない」「今しかない」新鮮さや特色を活かしたサービスの充実と開発を図る。

#### ①休憩・トイレ・情報サービスの提供

休憩、トイレ、道路情報等サービスの基本的な事項への対応は、充実したものとする。

- ・フードコート等、周囲の風景や眺望を活かした特色ある休憩スペース
- ・授乳室やパウダーコーナー、更衣室等の充実した24時間トイレ
- ・道路情報の24時間提供及び遠軽・オホーツク地域情報提供の充実

#### ②地域資源や活用のための工夫

地域で頑張る生産者や企業等の特色を活かした農産品や特産品を最大活用する、直売・物販・飲食の展開とする。

#### ③その他サービスの提供

- ・無料公衆無線LAN（Wi-Fi）の提供
- ・クレジットカード、電子マネー等利用の対応
- ・免税店制度導入の検討
- ・銀行ATMの導入

#### (2) トイレについての考え方

本施設への立寄りを促進するため、快適で充実したトイレ整備を行う。そのニーズに積極的に応える台数を確保するとともに、授乳室やパウダーコーナー、更衣室等の装備を備えた24時間トイレとする。

- ・女子トイレ：15、手洗い5、パウダーコーナー、授乳室、更衣室
- ・男子トイレ：大5、小10（うち手すり付1、小児用1）、手洗い4、更衣室
- ・多目的トイレ：1か所、オストメイト対応、オムツ替えシート
- ・休憩スペース：道路情報、自動販売機



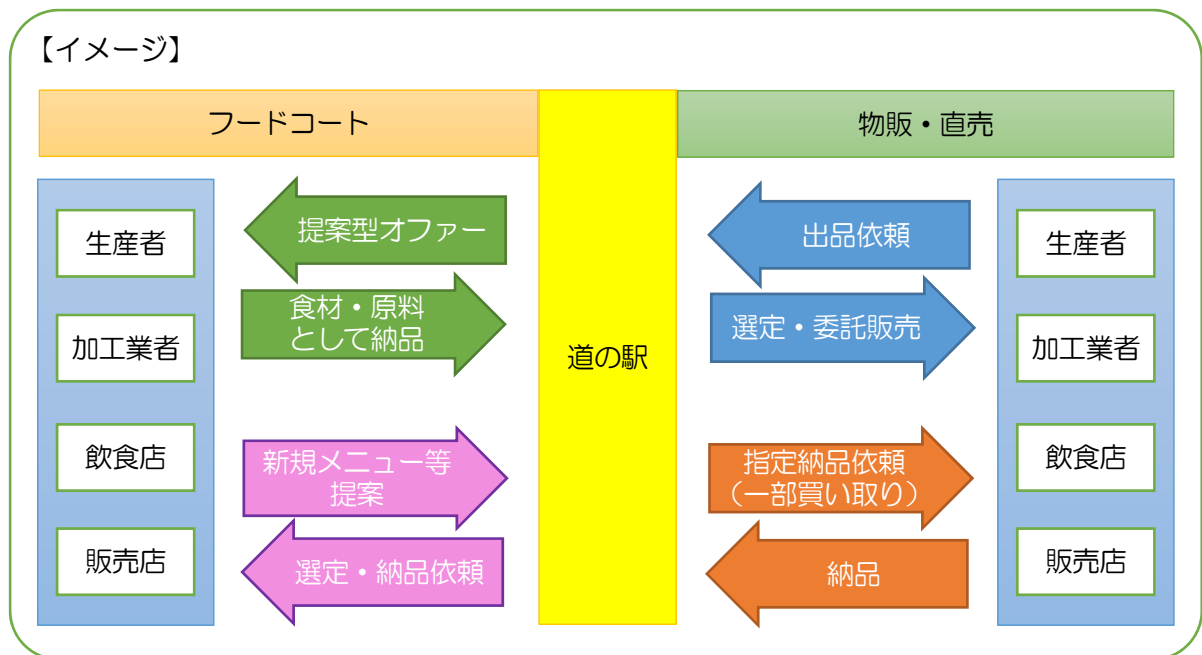
### (3) 直売・物販・食の提供の考え方

地域の特色を活かした農・海産物の直売、加工品や工芸品の開発や導入・販売、オホーツクの海産物及び加工品等の販売や宅配提供、遠軽・オホーツクの素材を多く活用した飲食提供等を実現するための、直売・物販・飲食の連携システムや、販売スタイル等を目指す。

#### ①地域との連携、直売・物販・飲食の連携

##### ●地域連携

～地域の特色ある生産者、加工製造業者等の掘り起こしと知恵の集結で、遠軽・オホーツクならではの魅力を発信する。



##### ●直売・物販・飲食の連携

～買うこと、体験すること、楽しみにすること等、本施設で経験するすべてを通して魅力にする。

- ア) 生産者の顔を感じる・商品の詳細を知ることができる直売や加工品販売、飲食の提供。
- 生産者や商品情報の表示はもとより、デジタルサイネージやスマートフォン等のアプリケーションを用いた情報提供を図る
- イ) そこで食べることができる体験
- 素材本来のうま味を味わうことができ、見栄えが良く、体にも良い食の提供
  - 食文化の継承と新たな食べ方の提案、レシピの紹介
- ウ) 話題づくりの検討
- 食に関する体験プログラムの導入やイベントの開催により集客を図るとともに、食の大切さや命の尊さを発信する



## ②農・海産物直売の魅力づくり

### ア) 農・海産物を計画的に出品できる組織づくり

- ・遠軽・オホーツクにこだわった品揃え
- ・出品管理、情報提供システムの整備
- ・販売手数料 15%以内（商品の種類により変動するものとする）

### イ) 購入を魅力的にする直売所づくり

- ・購入者満足度向上のための販売方法・ディスプレイの検討
- ・生産者の顔が見える販売方法
- ・試食できる新鮮さの提供
- ・購入者が満足できる価格設定
- ・宅配対応の充実

## ③物販ショップの魅力づくり

### ア) 商工品販売の仕組みづくり

- ・遠軽・オホーツクの開発商品にこだわった品揃え
- ・販売手数料 10～15%（商品の種類により変動するものとする）

### イ) 購入を魅力的にするショップづくり

- ・アンテナショップ、地域産品の情報拠点
- ・特色ある商品構成（例：ここにしかないもの、今しかないもの ほか）
- ・販売方法の工夫（例：試食、実演、体験、作り方の紹介 ほか）
- ・インバウンド顧客に対応した多言語ポップ

### ウ) 商品更新サイクルの仕組みづくり

- ・繁忙期を見据えた在庫管理（例：GW、お盆、年末年始 ほか）
- ・季節ごとのイベントに対応した販売促進PR  
（例：こどもの日、母の日、父の日、敬老の日、ハロウィン、クリスマス ほか）

## ④飲食提供の魅力づくり

### ア) 遠軽・オホーツクの素材を多く活用した特色ある「食」の提供

- ・季節を感じさせる魅力の発信
- ・旬の素材を活かした限定メニューの展開
- ・遠軽・オホーツクならではの食文化の継承

### イ) フードコートの手軽さ、多様さを活かした構成

- ・遠軽・オホーツクの産品を多く活用した、テイクアウトも可能なメニューの提供
- ・味はもちろん美味しく、健康的で、見た目にもオシャレなメニューの提供

### ウ) 屋外店舗スペースの検討

- ・フードコートの提供品目と重複しないことを前提に、屋内での提供が難しい品目（焼き物等）の提供を中心とした、常設の屋外店舗スペースの設置を検討する



## (4) 主な業務内容

業務名	内容
フロア管理（1階）	直売・物販ショップ、フードコート、屋外店舗スペースの管理等
道の駅運営	広告・ニュースレター等の発行／各種イベントの開催／道の駅フロアを統括する会議の開催
町民活動団体支援	町民活動団体の支援／関連企業・団体・個人等の支援
その他	施設内の維持管理 / 各種イベントの企画運営

## 2. ロッジ機能

## (1) 基本的な考え方

本施設全体の特徴や機能としての新しい枠組みを構築する上で、既成のスキー場事業を継続して運営することに止まらず、本施設が有する道の駅機能と合理的かつ効果的に組み合わせることにより、新たな事業展開が可能となる。特に、夏期におけるゲレンデを利用した活動展開は、集客や滞在時間を拡大し、施設活用の幅を広げるとともに道の駅としての特色づくりや認知度向上に寄与する。

## ①利用者のためのサービス提供

- ・ロックバレースキー場の既存サービスの充実とともに、夏期のサービス等の充実を図る。

## ②夏期の2階活用の工夫

- ・屋外デッキテラス利用と景観の整備
- ・風景、眺望を活かした休憩スペース、体験スペースの提供事業
- ・道の駅機能を補完する観光団体バス利用者等への食事提供事業 ほか

## ③夏期のゲレンデ活用のための工夫

- ・夏期の屋外体験プログラム事業
- ・町民参加型の景観整備事業
- ・スポーツ活動支援事業 ほか



## (2) ホール・レストスペース・軽食コーナーの考え方

冬期と夏期の利用が大きく異なるフロアであり、特に夏期の利用率向上が本施設の特徴づくりの要であることから、多用途利用を十分考慮したものとする。最大のセールスポイントはスキー場の夏の風情や、周囲の風景、町の眺望であり、その環境を最大限活かした施設利用を検討する。





### ①ホール・レストスペース

- ・冬期のホールは主にスキー場利用客の休憩・待合スペースとして考え、レストスペースは、スキー学習等団体利用を想定する。
- ・夏期は、体験プログラムや各種イベント等と連動した利用や団体客利用等を想定する。

### ②軽食コーナー

- ・冬期はテナントが入居し、主にスキー客の利用を想定したメニューを提供する。
- ・夏期は指定管理者の直営とし、体験プログラムや各種イベント等での利用を想定する。

## (3) 体験プログラムの考え方

魅力あるアクティビティと豊かな自然との共存及び心と体の健康をテーマに、さまざまな体験を通して新たな発見と感動を体感して頂くことを目指す。

また、体験部会での協議の経過を踏まえ、冬場のスキー場の運営に支障が出ないことを優先しながら、グレンデを有効利用した豊かな自然の中で楽しめるものと、天候に左右されない施設内で楽しめるものを整備することで、あらゆるニーズに対応した体験プログラムを提供する。

### ●体験プログラムの区分

#### ①アクティビティ体験

- ・体感を通して「遊び」を楽しむことができるアクティビティ体験を提供する。
- ・器具、機器を活用することから日々のメンテナンス及び安全管理については個別の管理マニュアルに基づき管理運営を行う。

#### ②自然体験

- ・広大なグレンデや森の中で「見る」「聞く」「触れる」ことから学ぶ自然体験を提供する。
- ・体験を通して、向上心や想像力、環境保全や自然愛護への積極的な態度を育てる。

#### ③健康体験

- ・温浴施設との連携や運動、ヘルシーな飲食メニューで相乗効果を図る健康体験を提供する。
- ・主に血圧を下げる効果や疲労回復効果の促進による健康効果を提案する。

#### ④学習体験

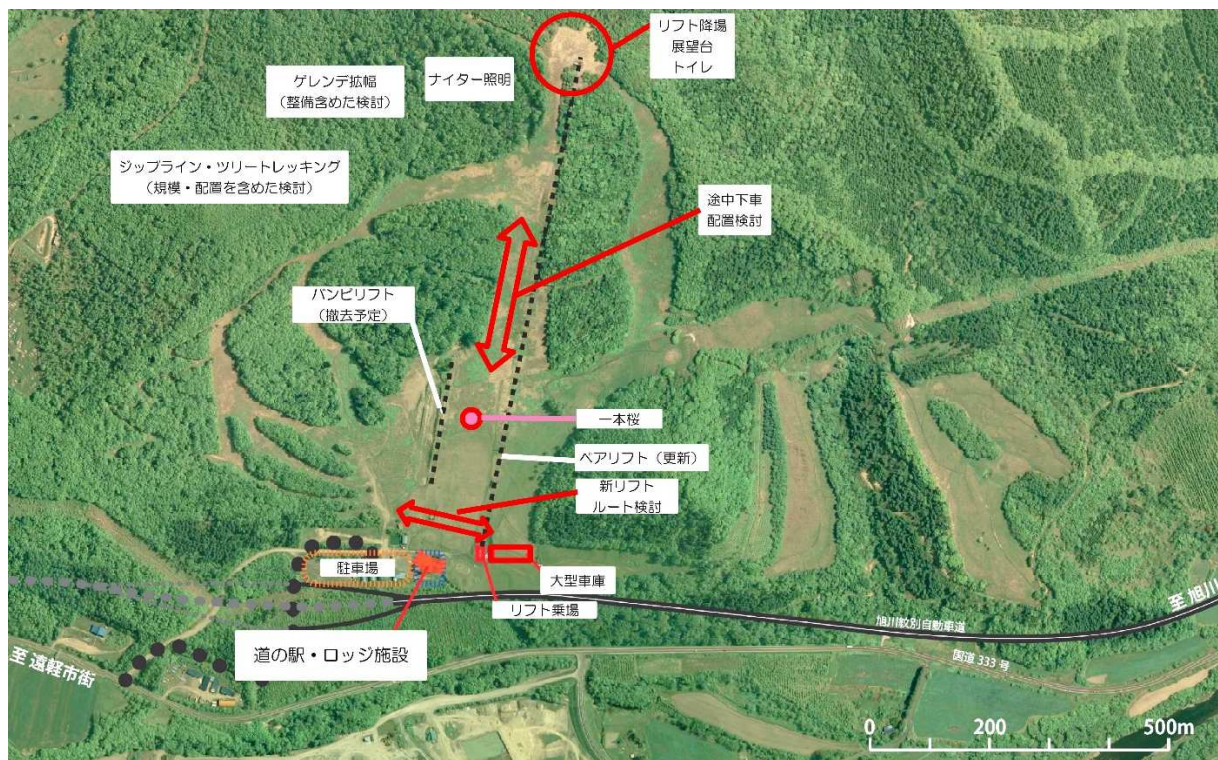
- ・職場体験や収穫・手作り体験など、実験・観察・見学の要素を盛り込んだ学習体験を提供する。
- ・体験の過程の中で、何に気づき、感じそして行動し、自他を理解して自分自身の変容を促すことを目指す。



### ●スキー場再開発の概要と配置イメージ

屋外体験プログラムの検討にあたって、ゲレンデを最大限に有効活用するためにはリフトの利用が不可欠であると考え。については、平成30年度以降、スキー場の再開発という位置づけで、老朽化したリフトの更新工事をはじめとする総合的な設計委託を発注し、様々な体験プログラムの可能性を考慮した整備に向けて検討を進める。

項目	概要
リフト更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬場の営業はもちろん、夏場の体験プログラムとの連動性も考慮し、ルート及び途中下車の箇所を設定する</li> <li>建設費、維持管理費を総合的に精査する</li> </ul>
ナイター照明	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に冬場のナイター営業の範囲を設定し、ゲレンデの拡幅も考慮した中で、必要に応じた配置を検討する</li> <li>夏場の夜間の体験プログラムの可能性も考慮する</li> </ul>
ゲレンデ拡幅	<ul style="list-style-type: none"> <li>より多くの方に楽しんでもらえるよう、コースの拡幅をはじめとした再整備を検討する</li> <li>冬場の営業はもちろん、夏場の体験プログラムとの連動性も考慮する</li> </ul>
展望台	<ul style="list-style-type: none"> <li>リフトを使った体験プログラムとして、収益を生み出すツールとするために、+αの付加価値を創出する</li> </ul>
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>山頂に上がったお客様の滞留時間の延長を目指すとともに、飲食サービスの提供も検討する</li> <li>衛生的かつ維持管理しやすい構造を検討する</li> </ul>
体験プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジップライン及びツリートレッキングは西側斜面の林間部を候補地としているが、設計委託の結果を考慮して検討する</li> <li>ドッグランは犬のサイズに応じた柵等の設置により、冬場のゲレンデに影響の無いように考慮する</li> <li>花の植栽は気候風土や土壌の適性、ゲレンデへの影響を考慮し、平成30年度に試験的に植栽を行う</li> <li>動物の冬期間の管理や飼育小屋等の管理方法等の問題点を整理する</li> <li>高濃度炭酸泉の足湯の導入を検討し屋外での建設を前提として、最大の問題となるコストの部分の部分を精査する</li> </ul>





#### (4) 主な業務内容

業務名	内容
フロア管理（2階）	ホール、レストスペース、ショップ、軽食コーナーの管理等
スキー場管理	スキー場の維持管理
スキー場運営	リフト等運行、発券業務/ロジフロアを統括する会議の開催/ 用具のレンタル/物品の販売
体験プログラム管理	屋内外体験施設の維持管理
体験プログラム運営	各種体験プログラムの運営/用具のレンタル/物品の販売
スポーツ活動支援	青少年への情報提供/各種団体との連携/合宿の誘致
その他	各種イベント等の企画運営

### 3. 全体管理機能

#### (1) 基本的な考え方

本施設の運営において、道の駅機能とロジ機能の融合は不可欠であり、両部門の強いつながりのもと、さまざまなコンテンツを提供することで、相乗効果を生み出すことが期待される。そのためには、施設全体の一体的な管理が必要であり、連絡調整・庶務事務・情報発信等の業務全般を集約させることで、円滑な施設運営が図られる。

##### ①リピーターの確保

- ・トイレ利用や各種情報を来場のきっかけとして、魅力的なコンテンツの提供及び各スペースの往来を促進する仕掛けにより、再び来場するきっかけを与えるとともに、誰もが安心して利用できる施設づくりをし、年齢を重ねても何度でも訪れたい道の駅となることを目指すために、“リピーターの確保”を最重要課題に位置づける。

##### ②一体的な管理

- ・経営面や施設管理面でのさまざまなメリットから、道の駅とスキー場は「一元管理方式」とすることとし、“リピーターの確保”という共通の課題に向かって、相互に“つながり”を意識することが、施設としての“つながり”を生み出すこととなり、協力・連携する上でのテーマとしながら、全体管理部門が連絡・調整することで、施設の健全かつ円滑な運営を目指す。

#### (2) 情報発信の考え方

本施設の運営に係る情報発信については、パンフレットやポスター等の紙媒体による広報はもとより、近年の急速なインターネット環境の整備と情報通信機器の普及に伴い、ホームページやSNS※1による情報公開及びパソコンや携帯電話等※2 利用者に向けたWebサイトと連携したサービスの提供を想定している。

※1 ソーシャル・ネットワーキング・サービス（Social Networking Service）の略で「人同士のつながり」を電子化するサービス。

※2 携帯電話、PHS、スマートフォン、タブレットなど





## ①各種情報の発信内容

	発信内容
道路情報	規制状況、路面状況について ほか
防災情報	気象注意報・警報発令状況、災害時の受入 ほか
観光情報	遠軽・オホーツクの歴史・風土・観光スポット等の紹介 ほか
地域情報	オホーツク管内市町村・道の駅との連携、遠軽町内の生産者・飲食店・商店・公共施設等との連携 ほか
施設情報	道の駅・スキー場の基本的事項、イベント等の周知 ほか
その他	リピーター確保のための仕掛け ほか

## ②発信区分と主な発信ツール

	主な発信ツール
施設内	インフォメーション・デジタルサイネージ・道の駅SPOT (Wi-Fi)
紙媒体	報誌・チラシ(新聞折込)・パンフレット・ポスター
電子媒体	ホームページ・SNS・動画投稿サイト・アプリケーション
その他	CM(テレビ・ラジオ・インターネット)・事前PR・飲食・物販・直売・体験

## ③基本情報の発信

- 施設の基本的な情報については、年間を通じた利用形態の変動を含めて、施設全体に係る部分が大きく、主に町広報、ホームページ、パンフレットでの発信がベースと考える。その中で、施設の部門ごとの情報の概要を次のとおりまとめ、媒体の適性を考慮した情報発信を行う。

部門	情報概要
全体管理	指定管理者概要、施設案内、イベント情報、アクセス、問合せ ほか
道の駅	飲食、物販、直売、体験プログラム ほか
スキー場 ※既存HPあり	ゲレンデ情報、料金表、体験プログラム、飲食、物販、レンタル、注意事項、策道安全報告書、関係リンク ほか

## ④リアルタイム情報の発信

- 施設の運営にあたっては、各種イベントの実施や施設の臨時的な情報など、近年の急速なインターネット環境の整備やスマートフォン等の普及を考慮し、柔軟でスピーディーな情報提供が求められる。その中で、各種SNSによる情報提供や、スマートフォン等のアプリケーションの導入などを通して消費を促す情報発信をすると同時に、お客様のニーズを読み取り情報収集を図ることで、以降の運営における指標とする。

区分	情報概要
SNS	飲食・物販・直売に関するお得な情報(限定・特売)、イベント情報、ゲレンデ情報、体験プログラム情報、利用者による二次的な情報発信、災害時の一時避難所としての周知
アプリケーション	生産者・商品情報、注文、電子決済、飲食・物販・直売に関するお得な情報(限定・特売)





## ⑤遠軽・オホーツクの情報発信

・「ゲレンデと遠軽とオホーツクの魅力を発信する道の駅」のコンセプトのもと、オホーツクの玄関口として、遠軽・オホーツクの情報発信を行うこととしているが、その範囲や方法等について、次のとおり考え方を提示する。

【範囲】基本的には遠軽町内の観光情報や生産者、各種施設、飲食店、商店、団体等の情報発信を優先的に考え、オホーツク全体の情報については、物販の面では遠軽にないものを中心に指定管理者が近隣自治体の生産者等と取引をした中で売場を構成するとともに、観光の面では各地域のイベントや景勝地などを横断的に絡めた情報発信を行う。

【方法】製品の販売を通じたPRをはじめ、オホーツク管内各自治体、観光協会、道の駅等で発行する各種パンフレットの設置はもとより、インターネットを活用した最新の情報を、情報用端末及びWiFiを通じて発信するとともに、電子機器が苦手な高齢者などにはスタッフが直接対応する。

## ⑥オホーツク管内地域連携イメージ



地域	主な連携項目
①西紋別 (紋別・雄武・興部 ・西興部・滝上)	花観光、流水観光、体験施設、海産物、乳製品、サイクリング、各種イベントほか
②遠軽 (遠軽・湧別・佐呂間)	町内生産者、加工業者、飲食店、販売店、花観光、流水観光、農・海産物、クロスカントリースキー、体験施設、サイクリング、各種イベントほか
③北見 (北見・訓子府・置戸)	加工品、流水観光、体験施設、サイクリング、各種イベントほか
④斜網 (網走・大空・美幌・津別 ・小清水・清里・斜里)	花観光、流水観光、知床観光、体験施設、サイクリング、各種イベントほか

※地域区分については、管内を大別する一つの指標であり、各種連携を固定化するものではありません。

## ⑦道の駅名称募集・選考及びロゴマークの作成

- ・道の駅のオープンに向けた準備を進めるにあたり、募集を通じた事前PRのために、次のとおり名称を募集・選考するとともに、ロゴマークを作成する。
- ・名称については、道の駅登録に際しての必須項目であるとともに、自然豊かなロケーションがイメージでき、多くの方に愛着を持ってもらえるような名称が望ましいと考える。
- ・ロゴマークについては、施設内の什器や壁、商品パッケージ、スタッフのユニホーム等に共通のマークをつけることで、ブランドイメージの向上や、施設全体の一体感の醸成が図られるものであり、本施設においても導入を図る。



区分	名称	ロゴマーク
募集方法	公募	
周知方法	町広報、町HP、各種SNS、ポスター、チラシ ほか	
対象	日本国内在住の方（年齢制限なし）	
提出形式	応募用紙 ※紙媒体、電子媒体	
応募方法	持参、郵便、FAX、電子メール	
選考者	遠軽IC道の駅検討協議会	指定管理者
選考方法	検討協議会事務局で絞り込み（数件） ⇒検討協議会で協議・決定	指定管理者で協議・決定 ⇒検討協議会に経過報告
公表方法	町広報、町HP、新聞、各種報道機関 ほか	
採用者対応	命名式、特典 ほか	
帰属	遠軽町	指定管理者

### （3）防災の考え方

近年、オホーツクでは、風雪害による大規模な通行止めや、人が亡くなる事例も発生している中で、「遠軽町地域防災計画」では、「北海道緊急輸送道路ネットワーク計画」に基づき、旭川・紋別自動車道を第1次緊急輸送道路、国道333号を第2次緊急輸送道路と位置づけており、本施設は両道路に隣接するという立地特性から、災害時には緊急輸送における拠点となるとともに、一時避難場所としてのスペースを確保し、停電時に対応できる発電機や防災グッズを備蓄するなど、指定管理者、遠軽町及び関係機関が連携して、整備や計画づくりを行う。

#### ①北海道緊急輸送道路ネットワーク計画による緊急輸送道路の区分

第1次緊急輸送道路ネットワーク	道庁所在地（札幌市）、地方中心都市及び重要港湾、空港、総合病院、自衛隊、警察、消防等を連絡する道路
第2次緊急輸送道路ネットワーク	第1次緊急輸送道路と役場、主要な防災拠点（行政機関、公共機関、主要駅、港湾、ヘリポート、災害医療拠点、備蓄集積拠点、広域避難地等）を連絡する道路
第3次緊急輸送道路ネットワーク	その他の道路

#### ②北海道緊急輸送道路ネットワーク計画による町の緊急輸送道路

第1次緊急輸送道路	高規格幹線道路旭川紋別自動車道、国道242号、道道遠軽芭露線、町道1条通、町道市街地36号通
第2次緊急輸送道路	国道333号、町道福路西1線通、町道東区2号線
第3次緊急輸送道路	道道遠軽停車場線、道道白滝原野白滝停車場線、町道2条通



## ③遠軽 I C 道の駅の防災計画

- ・本施設においても、遠軽町地域防災計画を踏襲し、必要に応じて同計画に追加・修正事項を盛り込むこととして、総務部危機対策室をはじめ、関係機関と協議を進める。
- ・遠軽町地域防災計画では「スキー客対策」として、「スキー場で雪崩等が発生した場合、リフト、ロッジ等の損壊などで多数のスキー客の被災が懸念されるため、町は、スキー場管理者にスキーパトロール隊による救出・避難誘導計画等をあらかじめ定めておくよう要請すること」としており、これも引き継ぐものとする。（遠軽町地域防災計画第4章第11節第5）

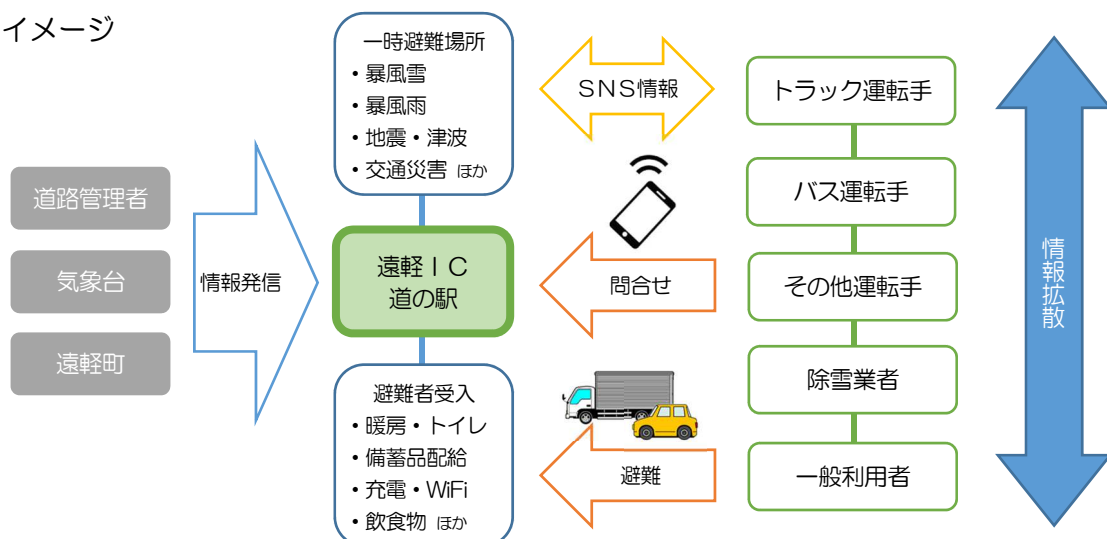
## ④「道の駅」における協働事業に関する協定

- ・現在、地域及び道路利用者の安全・安心の補完並びに地域振興活動の充実を目的として、遠軽町、北海道コカ・コーラボトリング株式会社、国土交通省北海道開発局網走開発建設部の3者により、道の駅まるせっぷ及び道の駅しらたきに設置したネットワーク接続されたメッセージボード付自動販売機を通して、利用者に対し、地域情報、道路情報等及び緊急時における自販機内在庫商品（無償）の提供サービスを行うこととする協定を締結している。（遠軽町地域防災計画資料編第18）
- ・本施設においても、同様の自動販売機の設置を推進するとともに、防災拠点化など新たな協定の締結に向けて協議を進めることとし、災害に強い道の駅を目指す。

## ⑤災害時の対応と情報発信

- ・本施設は、トイレや駐車場などの利用が24時間可能であるとともに、当面は高規格道路の末端となる I C に隣接する施設であることから、災害時など高規格道路や国道が通行止めになる際には、各業種の運転手や一般利用者の一時避難場所となることが予想される。
- ・施設の対応としては、駐車場及び施設周辺の除雪、施設内への誘導、暖房の提供、トイレの提供、備蓄品の配給、携帯電話の充電、W i F i の提供、概ね3日分の飲食物の提供（有償・無償）などが考えられ、状況のリアルタイムの情報発信が求められる。
- ・このようなサービスの実施を周知するために、日常的に備蓄品を整備した中で、道路管理者や气象台、町からの情報発信を受けて、一時避難場所としての態勢を整えるとともに、主に SNS を使った避難者や除雪業者への情報発信・収集を想定する。

## ●イメージ





## ●主な備蓄品（案）

項目	概要	保管先
資機材	発電機、テント	大型車庫
暖房器具	ファンヒーター、パネルヒーター、薪ストーブ、 使い捨てカイロ ほか	備蓄庫、大型車庫
寝具	毛布、布団 ほか	備蓄庫
食料	米、レトルト食品、粉ミルク ほか	備蓄庫、 プレハブ冷凍・冷蔵庫
飲料	ミネラルウォーター、お茶、コーヒー、 清涼飲料水 ほか	備蓄庫、自動販売機
調理器具	鍋、フライパン、カセットコンロ ほか	フードコート、2階厨房
簡易食器	紙コップ、紙皿、割りばし ほか	備蓄庫
燃料	灯油、ガソリン、薪 ほか	大型車庫
その他	懐中電灯、乾電池、ろうそく、紙おむつ、 おしりふき、生理用品、マスク ほか	備蓄庫

## (4) 主な業務内容

業務名	内容
総務	施設内の連絡調整／オホーツク管内市町村等との連携／ 関係機関との連絡調整／文書の収受、整理、照会、回答
庶務	委託等契約／給与／保険
経理	予算、決算／出店・出品料金等管理
情報発信	ホームページの更新・管理／広報資料作成／ 各種媒体を利用したサービスの提供
その他	施設全体の維持管理、備品管理

